

(様式第4号)

上田市生涯学習基本構想策定委員会 会議概要

審議会名	上田市生涯学習基本構想策定委員会
2 日 時	令和7年7月28日 午後3時00分から午後5時30分まで
3 会 場	市役所本庁舎 5階 大会議室
4 出 席 者	酒井真由子会長、関和幸副会長、宮下俊哉委員、山崎順子委員、小平千文委員 滝沢正幸委員、窪田富子委員、小林真由美委員、坂口純一委員、手塚由花委員、 神林花帆委員、竹田貴一委員、橋詰正委員、柳沢泉委員、吉村かつえ委員
5 市側出席者	佐藤文昭生涯学習・文化財課長、田中彰中央公民館長、 久保田政博丸子地域教育事務所長、宮島剛真田地域教育事務所長、 小松弘俊武石地域教育事務所係長、金田早苗上田図書館長、春原茂文化政策課長、 横田知里生涯学習係長、荒井美貴生涯学習係主事
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍 聴 者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和7年8月28日

協 議 事 項 等

- 1 開 会 (横田生涯学習係長)
 - 2 あいさつ (酒井会長、佐藤生涯学習・文化財課長)
 - 3 会議事項
 - (1) 第三次上田市生涯学習基本構想(案)について
 - ・資料1 に沿い、横田係長から第三次生涯学習基本構想(案)について前回からの修正・追記の内容について説明
- (委 員)
- この構想は、さらに実施計画のようなものに落とし込み、担当課で取組を行っていくことが想定されているという認識で良いか。
- (事務局)
- 基本構想は、大きな方向性を示したもので、具体的なところは、アクションプランのようなかたちでつながっていくことを想定している。
- (委 員)
- 「基本方針2 学びを通じたつながりづくりを育む」のなかの「基本施策2 地域で活躍する人材や団体の育成と支援」「基本施策3 地域で子どもを育む活動の充実」について、つながりづくりのイメージについて補足説明をお願いしたい。
- と考える。
- (事務局)
- 基本施策2(1)では、個々の興味関心での単発の講座受講等にとどまらず、継続的な学びや学びたい人同士をつなげるための支援によるつながりづくりをイメージしている。また、現在継続的に自主的な活動を行っている既存団体等が、今後さらに活動を充実していくことができるよう、今ある人や団体のつながりを保ちながら、さらに広がりをもっていけるような機会づくりや支援をしていくことをイメージしている。
- 基本施策2(2)では、地域で各種団体が継続的に活動されているが、コロナ禍でのつながりの希薄化や活動の縮小等を経て、活動が停滞気味になっている部分もある。必要な情報提供や支援を行うことで、担い手を育成し、活動を進めていくためのつながりづくりを進め、地域活動やまちづくり活動の活動が活性化することをイメージしている。
- 基本施策3(1)は、子どもの豊かな成長を支えていくために地域での様々な人との関りや体験や経

験が大切であり、これまでの各分野で様々な取組が行われてきている。今後も、子ども達が地域での様々なつながりを持っていけるような取組を充実させていくことをイメージしている。

基本施策3(2)は、学校という場所で、学校と地域の方々がつながり、また地域の方々と子どもがつながり、また地域の大人同士もつながる活動になっている。また、子どもと地域の大人がともに楽しみ、学びあう機会となっている。この取組をさらに充実させていくことで、学校を核としたつながりや学びあいが広がり、地域で子ども育てていくということができればよいと考えている。

(委員)

細かい内容についていくつか挙げるので、事務局で持ち帰り検討をお願いしたい。ZOOMという表記があるがWEB会議システム等の表記が適切ではないか。部活動の地域展開に言及している表記があるが、義務教育等の追記の検討や、課題として適切な表現方法がされているかについての再検討が必要ではないか。「第2章 6 第二次基本構想の評価と現状をふまえた第三次基本構想策定に向けた課題について」の内容について、表題の表記のしかた、評価と課題の分け等文章の整理の再検討が必要ではないか。

(委員)

「第2章 3 上田自由大学に学ぶ」の記載をしていただき大変良い。

上田図書館の改築について、いつ頃から出てきている話なのか。また、図書館の改築を実現していくために、基本構想の中で何年後にといった踏み込んだ記載をしていくことはできないか。

また、「各施設とも公の施設における使用料金の考え方にに基づき、適切な施設の維持管理に努めるとともに、計画的に施設更新を進めていく必要があります。」との記載があるが、図書館と使用料にどのような関係があるのか説明をお願いしたい。

(事務局)

上田図書館改築の必要性については、第二次図書館基本構想のなかで触れられており、9年前には出てきていた話。そのうえで、先進地の視察等研究を行ってきた。図書館としては、建設から耐用年数である60年を経過する頃には新たな図書館を建設したいとの思いがあるが、現実的には、財源、場所、規模等様々な課題があり具体的な先の見通しを示せる状況にはない。現状とすると、この基本構想に何年後というような表記をすることは難しいが、図書館建設が市として確定してきた際には、図書館建設に関する計画を立てることになるので、その中で具体的な年数や規模等を示していきたい。

使用料金についての一文については、図書館の施設整備に関する内容とその他社会教育施設についての内容が続けて表記されており、分かりにくい状態になっているが、使用料については公民館等図書館以外の社会教育施設についての内容となっている。

(委員)

図書館運営協議会では、上田図書館の改築についてどの様な議論がされているか。

(事務局)

図書館の運営に関して意見をいただく団体として図書館協議会があり、上田市全体の図書館について様々な事業についての意見をいただいている。現状、まだ図書館建設について決定されていないため、協議会の議題としてはあげていない。

(委員)

基本構想にどのように盛り込んでいくのかを含め、上田図書館の改築を実現していくために積極的な姿勢を示すことが必要ではないか。

(委員)

基本構想ということで、全体的に内容的が抽象的であり、具体的な取組の中での課題から次はここを重点的に取り組みたいという方向性うちだされているかたちではないため、委員として意見を出すことが難しい。障がい者への合理的配慮、情報保障にしても、具体的に何か変わってくるのか、何

が足りないからここを重点的に進めたいというような具体的な記載ができるのであれば、内容について深められる。そうした内容を期待したい。

(事務局)

表現として足りない部分については工夫をしたい。

(委員)

基本構想のなかで、具体的にとても良かった事例や失敗した事例など参考資料として掲載できないか。

(事務局)

基本構想の資料編で、基本構想の根拠となる資料を示す予定のため、そのなかで必要性も検討しながら、より分かりやすい見せ方をしていきたい。

(委員)

基本構想のなかで、様々な施設の老朽化が課題としてあげられているが、今後の人口減少等を考えると、施設が古くなったら漫然と建て直すということではなく、集約化等も必要と考える。基本構想でもコンパクトシティ化的な発想での検討があっても良いのではないか。

(事務局)

ご指摘のとおり、新しいものをつくれれば良いだけではなく、財政的な面や利用する方の需要等を含め合理的な進め方というのも非常に重要な視点である。

(委員)

学びの機会の提供としてオンラインでの講座等の記載がされているが、基本構想では人と人がつながることや地域でのつながりなどを重視していくということであれば、対面での活動を大切にされた方が良いのではないか。自分自身の経験でも、対面での受講や実際に人と関わるなかでの学び、現地での学びのほうがオンライン講座等より学ぶことが多いと感じている。

(事務局)

基本的な考え方としては、人と人が対面で学び、つながりづくりをしていくということを重視していきたい。一方、ライフスタイルが多様化するなかで、従来の講座等の実施方法では十分市民のニーズに対応しきれない部分もあり、工夫をしていく必要があるのではないかと感じている。WEBでの講座やオンラインでの会議等、多様な学習機会を提供することのひとつの手段として考えていきたい。

(会長)

貴重なご意見をいただいた。市民意識調査では、オンラインでの講座等にも多くの期待が寄せられている。ただ、今回の基本構想では人と人が学びあい、つながることを柱にしている。つながりをつくるために、オンラインはどうあるべきかというような考え方ができればよいのではないか。

(委員)

上田図書館の整備について、老朽化、狭隘化が著しいため整備を検討していく必要があることは、誰が見てもわかること。基本構想に載せていくのであれば、図書館のそもそもの必要性という部分についても言及しても良いのではないか。

(委員)

「ウェルビーイング」や「シームレス」など英語で表現されている箇所があるが、括弧書きで注釈が入っていた。基本構想は市民に提供されるものなので、注釈をつけるなど分かりやすい表記を心掛けてほしい。

5 事務連絡

・第5回策定委員会 9月29日(月) 16時からを予定

6 閉会(横田生涯学習係長)

